

## 発達障害等相談センター運営事業

## &lt;内容&gt;

発達障害児・者等に対する専門職（社会福祉士、臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等）による身近な相談窓口を設置（令和元年度から特定非営利活動法人メンタルヘルス研究会：宇部フロンティア大学内 に業務委託）

## &lt;実績&gt;

内容		平成 30 年度	令和元（平成 31）年度
1. 発達、生活相談 （相談件数）	相談実件数	850 件	782 件
	相談延べ件数	2321 件	2034 件
2. 保護者サポート	保護者グループ 自助グループ	実施 24 回 参加者延 108 人	実施 33 回 参加者延 105 人
	ペアレントトレーニング	実施回数 18 回 参加者延 71 人	実施回数 12 回 参加者延 51 人
3. 支援者育成	スーパーヴァイズ	14 件	13 件
	講師派遣	講師派遣 12 件 参加者延 157 人	講師派遣 10 件 参加者延 300 人
4. 普及、啓発	講演会 研修会	講演会 1 回開催 参加者 102 人 研修会 7 回開催 参加者延 94 人	講演会 1 回開催 参加者 260 人 研修会 4 回開催 参加者延 81 人
5. 関係機関との連携	関係機関の会議	13 機関 延 42 回	10 機関 延 40 回
6. なんでも相談	相談実件数	—	22 件
	相談延べ件数	—	104 件

## &lt;評価&gt;

・平成 30 年度と比較し、相談実件数は約 92%、延べ件数は約 88%と 1 割程度減少している。相談対象者の年齢内訳では、学校からの情報入手件数が増える等、学童期の相談数が最も多く、20 代～40 代の成人期の相談数も増加した。相談内容は、日常生活の相談をはじめ、就労や不登校、進学や虐待など、多岐に渡る相談に応じており、臨床心理士等による心理・発達検査等の実施や適切な評価、発達に応じた療育や教育及び支援の方法について助言を行っている。また、必要に応じて関係機関への紹介及び連絡調整を行っている。

・保護者グループ、自助グループのサポートを実施し、お互いの悩みや不安を軽減し、支え合う場として活動が継続されている。平成 30 年度は、ペアレントトレーニングをセンター以外に、放課後等デイサービス事業所にて実施。令和元年度は、ペアレントトレーニングの視点を日頃の保護者支援に活かしてもらうために支援者向けの研修会として、ファミリーサポートセンターや保育園等で実施し、保護者サポートの拡大強化につながっている。

・講師依頼への対応や講演会の実施、関係機関の会議参加による支援者育成、普及啓発及びネットワークの構築に努めている。

・「宇部市発達障害児を支えるネットワーク協議会」の一員として、「発達障害とともに生きていくためのサポートブック」の普及に努めている。

### <今後の具体的な取り組み>

令和元年度より、「なんでも相談」事業所となり、世帯全体の複合化・複雑化した課題を持つ対象者の相談窓口としての対応も始めた。それに伴い、幅広い課題に対応する個々のスキル向上や関係機関との連携強化、ネットワーク構築等、今後も継続して取り組んでいく。

また、「パーソナル手帳」等の活用を進めていき、幼児期から成人期までの切れ目のない継続した支援に生かすとともに、アウトリーチ等による相談支援体制を更に強化していく。